

大竹駅



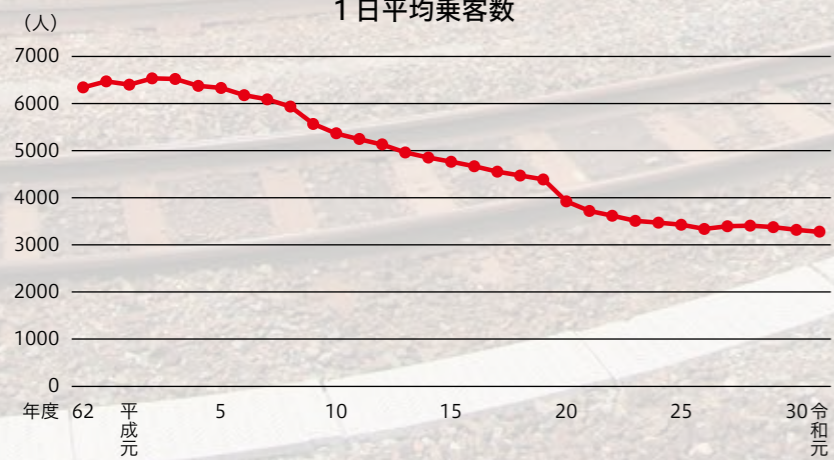
大竹駅 story

— 現在 過去 未来 —

大竹駅の歩み

年号	西暦	内容
明治	30 1897	山陽鉄道広島駅 - 徳山駅間の開通と同時に開業 旅客・貨物の取り扱い開始
	39 1906	山陽鉄道国有化により官設鉄道駅となる。
	42 1909	山陽本線の所属になる。
大正	15 1926	大竹駅 - 岩国駅間複線化
	2 1927	玖波駅 - 大竹駅間複線化
昭和	15 1940	大竹駅舎改修
	39 1964	横川駅 - 小郡駅間電化 大竹駅舎改修
	47 1972	一部の特急列車が大竹駅に停車 (1日2本)
	49 1974	大竹駅舎完成 (現在の駅舎)
	50 1975	山陽新幹線全線開業に伴い大竹駅停車の特急・ 急行列車廃止
	62 1987	国鉄分割民営化により、西日本旅客鉄道 (JR西 日本)・日本貨物鉄道 (JR貨物) の駅となる。
平成	19 2007	ICOCA対応の自動改札機設置
	25 2013	業務委託駅になる。
令和	5 2023	大竹駅舎 (建築中の新駅舎)・東西自由通路完成 予定

1日平均乗客数



夕刻の大竹駅。プラットホームは、帰路につく高校生たちで埋まり始めます。現在の跨線橋の隣、線路を覆うように横断する工事の駅舎と自由通路の鉄骨。その下をシルバーの車体の電車が滑るように入線してきます。

明治30年に開業した大竹駅。124年の歴史の中で、この駅を通り過ぎた数多の人々。喜びや悲しみ、一人一人の胸には、駅を舞台にした物語が刻まれてきたことでしょう。

令和5年、大竹駅はまた新たな一歩を踏み出そうとしています。長い駅の歴史を振り返り、共に新時代の物語をつづつてみようではありませんか。

(4〜13ページ) 【取材 企画財政課】





大竹らしさを感じる駅 人々のにぎわう空間に――

都市計画課 主任
長戸 宏樹



交流広場の活用を考えるワークショップを開催。熱心な意見を交わしました。

大 竹駅周辺は、昭和63年に「大竹駅前地区市街地基本計画」を策定し、市の玄関口にふさわしいまちづくりに取り組んできました。平成7年には、駅周辺市街地を高架橋で結ぶ市道新町西栄線（自由通路）と、東口広場も計画されましたが、景気の低迷や財政状況、関係機関との調整の難航などの理由で、なかなか進展しませんでした。その後、地元自治会や障害者団体などから駅周辺の活性化や駅のバリアフリー化を望む声もあり、平成24年に「大竹駅周辺整備新構想」がまとめられました。構想に基づき、駅東西地区の回遊性の向上、駅や周辺のバリアフリー化、交通拠点・結節点の機能強化を目的に、駅の橋上化や東口広場整備、憩い・交流空間を創出できる西口広場の再整備など、駅周辺整備の一体的となった事業の方向性を持って、JRなど関係機関と協議を進めてきました。平成30年には、JR西日本、JR貨物、市の3者で基本協定を締結。平成31年に詳細設計、令和2年に着工となりました。今後は、令和4年度末に橋上駅舎と自由通路の完成、その後、東西広場の整備を行う予定です。

生 まれ変わる大竹駅。その外観には、大竹ならではの特徴があります。



東口へと伸びてきた自由通路を前に田出さん(右)と吉田さん(左) 11月11日撮影

地域に愛される駅舎に――

西日本旅客鉄道株式会社

田出 颯さん 吉田 依那さん

大 竹駅前の工事現場をぐるりと囲んだ塀の向こうに、組み上げられた灰色の鉄骨が見えてきます。令和5年の春に完成予定の新駅舎と自由通路の一部です。令和2年12月に基礎杭工事に着手してから、この夏ごろから徐々に姿を現してきました。

「工事の進捗よく状況は40%ほどと考えられます」。そう答えてくれたのは、工事の現場と駅との調整を図り、スムーズに工事を進めていく役割を担っている西日本旅客鉄道株式会社広島建築工事所の田出颯さんと吉田依那さん。

大竹駅は旅客駅と貨物駅とが同居する駅。貨物ヤードを含むため、広島と岩国間の駅の中では、広い構内となっており、西口と東口とを結ぶ127mに及ぶ自由通路は、沿線の旅客駅と比べても長いものになります。

「西側から旅客の線路、ホーム、貨物ヤードがあります。ホームをまたいで杭や鉄骨を施工するときに、お客様の安全に配慮しながら行うというところに難しさがありました」。何

よりも安全確保に細心の注意を払う田出さんたちです。そのため、工事は夜間に行うことが多く、周辺住民への配慮も欠かせません。

「近隣の方には、ピラなどで工事内容などをお知らせしています。音もできるだけ低減するように努めて施工させていただいています」と吉田さんは語っています。

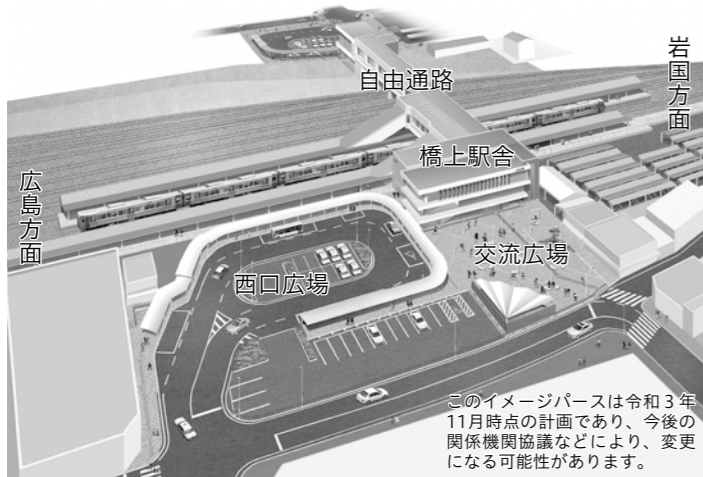
橋 上駅となる新しい駅舎。広島シティネットワークと位置づけられるエリアで広島駅以西では、ほとんどが橋上駅に変わりました。最近の駅の特徴で、改札口と駅の両側エリアを自由通路でつなげることで、利用者の利便性が高まると考えられているからです。

「JR大竹駅デザインアンケート」で市民の方の意見を取り入れながら、大竹和紙でできたこのぼりをコンセプトにした駅舎のデザインを決めました。地域と共生しながら、地域に愛される駅舎を目指していきたいと思っています。新たに生まれ変わる駅舎への思いを語ってくれた2人でした。

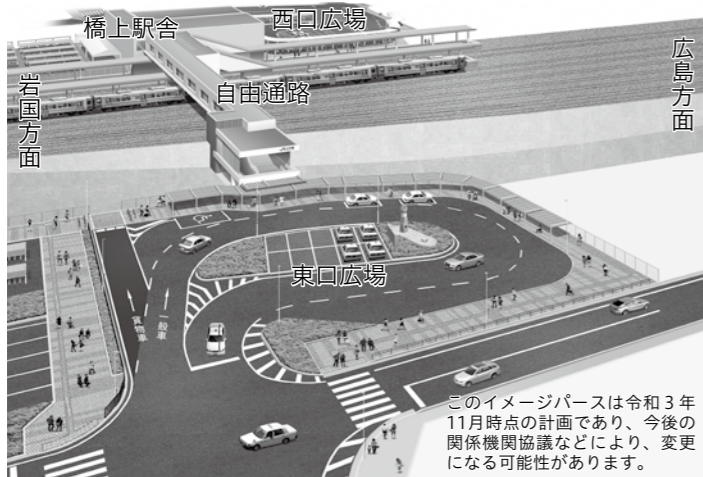
「期待を込める長戸主任でした。」

東 西に整備される広場には、送迎用の乗用車がスムーズに乗り降りできるよう乗降場や駐車場が設けられます。さらに西口の交流広場の一角には屋根付きのスペースが設けられ、イベントなどで使用できる予定です。

「交流広場の活用などは、ワークショップを通じて、市民のみなさんの思いをお聞きすることができました」。単に移動手段のための駅ではなく、人々が集いにぎわう空間となることを願う長戸主任です。



このイメージパースは令和3年11月時点の計画であり、今後の関係機関協議などにより、変更になる可能性があります。



このイメージパースは令和3年11月時点の計画であり、今後の関係機関協議などにより、変更になる可能性があります。